

これまでの検討経過

第 1 回（5 月 3 1 日）有識者からの意見聴取①

一般社団法人地域研究工房 代表理事 小磯修二 氏

- ・ 「北海道の経験を未来につなげるために―地域政策の歴史的な文脈から―」をテーマに、講演をいただく。
- ・ 50 年前の高度成長期の当時とは時代背景が大きく変化している。
- ・ 今の時代からみた評価が大事。
- ・ 百年記念塔のコンセプトに「天をついて限りなくのびる」という表現があり、当時はそういう心意気で施策を検討したが、その後、有限性を認識し、夢への挑戦ということが失われた。

第 2 回（7 月 1 3 日）有識者からの意見聴取②

北海道大学観光学高等研究センター センター長 西山徳明 氏

- ・ 百年記念塔については、50 年前に何故建てたのかという建立の意図が達成されたのかを検証すべきで、ただコストの問題で壊すとしたら、それは、文化や歴史が積み重ねられなくなる。
- ・ 開拓の村については、素晴らしい施設と周辺環境が良好に保存されているが、これを未来に継承していこうとすると、予算的に厳しいため、民間の活力を活用することが必要。
- ・ 開拓の村における個々の建造物をどのように活用するかについては、大きな幅があるが、これについては専門家の判断が必要。

北海道大学公共政策大学院 特任教授 石井吉春 氏

- ・ 道の公共施設は、1970～80 年代が整備のピークであり、首都圏に比べると大体 10 年遅れとなっているが、一斉に更新時期を迎えることで、どう対応するかが問題となる。
- ・ 北海道は自然条件が厳しいことから、建物やインフラが他の地域よりも負荷が大きいこともあり、今後人口減少がさらに見込まれる中で、現有量を全て維持していくことは明らかに困難。
- ・ 百年記念塔については、老朽化により立入禁止となっているが、耐久性の面で十分な検討なく建てられており、これを将来世代の負担で維持更新していくことにはならない。

札幌大学教授 本田優子 氏

- ・ 北海道博物館について、例えば、アイヌ語辞典の機能が加わるなど他の博物館にない要素があれば、アイヌ語学習に大きく貢献することになる。
- ・ 開拓の村については、抜本的な改革が必要であり、思い切った民間活力の導入を検討すべき。
- ・ 百年記念塔については、解体した後、跡地には何もつくりたくない方がよい。